

令和6年度 授業改善推進プラン（全体）

学校名 豊島区立豊成小学校

校長名 山本 知範

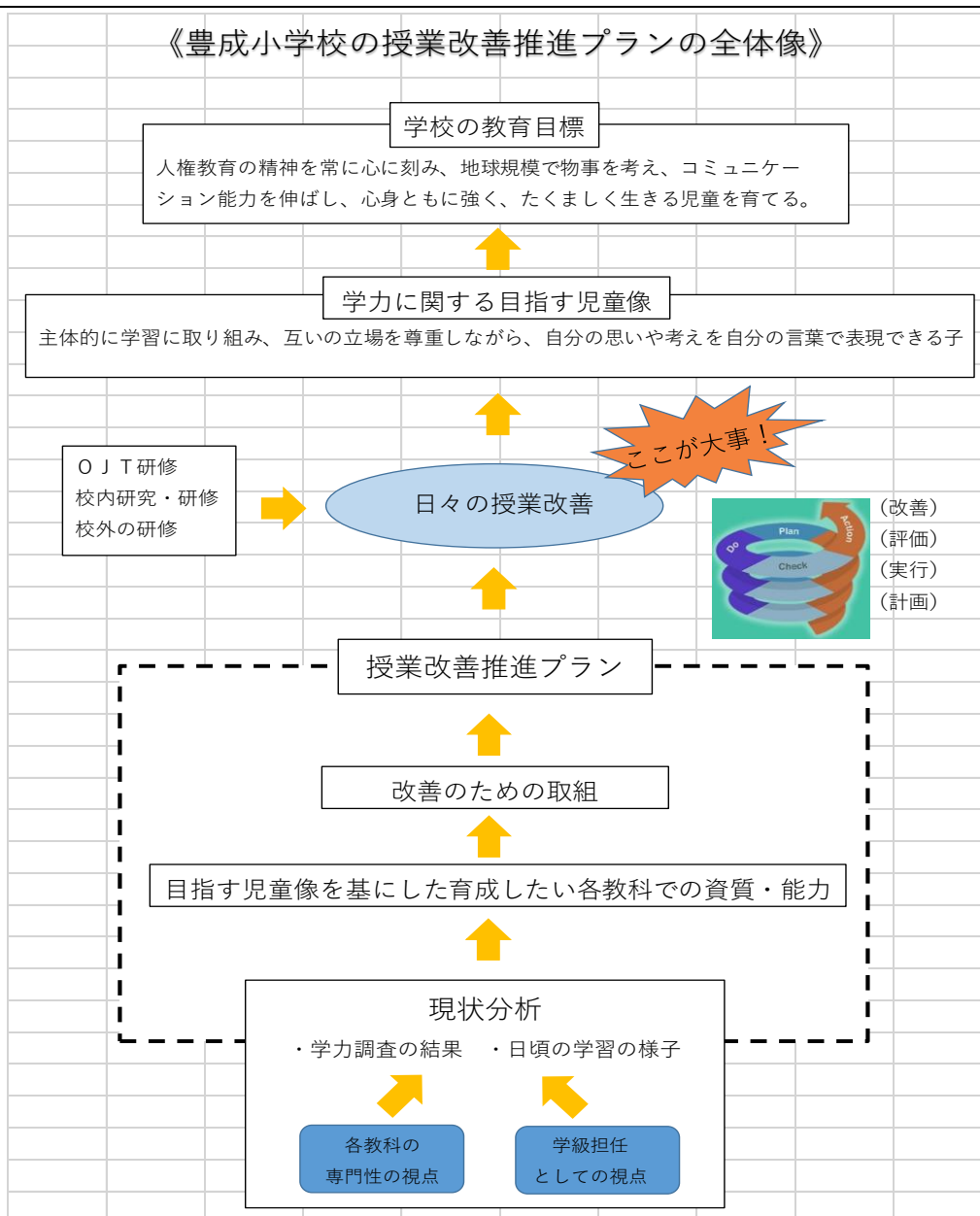
学校の教育目標

人権教育の精神を常に心に刻み、地球規模で物事を考え、コミュニケーション能力を伸ばし、心身ともに強く、たくましく生きる児童を育てる。

学力に関する目指す児童像

主体的に学習に取り組み、互いの立場を尊重しながら、自分の思いや考えを自分の言葉で表現できる子

授業改善推進プランの全体像



令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
・自己の学びを振り返り、自己調整しながら学習を進められる力を養う。 ・自分なりの考えを形成して交流する活動や読書活動を充実させることを通して、語彙力を素養したり、伝え合う力を高めたりする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・比較的話すことに抵抗はないが、分かりやすく伝えるのが難しい。	・自信をもって自分の思いを伝えられるように、話型を活用する。 ・絵本にたくさん触れられるように環境を整え、読み聞かせを毎日行う。
低	・伝えたいことを分かりやすく話したり、文章を書くことに慣れていない児童が多い。 ・自分の思いを表現するための語彙が少ない。	・誰に伝えたいことなのか意識させ、話したり書いたりする活動を行う。 ・正しい言葉の表記の基礎基本を身に付けさせるための時間を十分に確保する。 ・作文や日記、振り返りなど自分で書いた文章を、ペアで紹介したり、見直したりする。 ・話型の活用やペアでの活動を充実させ、自分の言葉で発言できるようにする。 ・図書の時間や朝読書の時間に読み聞かせを行い、様々な分野の本に触れられるようにする。 ・自分の好きな場面を紹介する読書活動を行う。
中	・自分の思いや考えを話したり、書いたりすることができる子が多いが、根拠や理由を明確にして伝えることに課題が見られる。また、具体的に表現するための語彙が乏しい。 ・日常的に本に親しんでいる子が多いが、漫画や絵本を多く読む児童が見られる。	・互いの考えを伝え合う交流の場面を単元の中に設定するとともに、話の聞き方や話のつなげ方などのポイントを提示して、他者を尊重して自分の考えを伝えられるようにする。 ・目的に合った話合いが行えるように、交流の観点を明確に提示する。 ・相手に分かりやすく考えを伝えるために、根拠や理由を整理して書く学習活動を行う。 ・辞書や辞典の使い方を知ったり、活用したりする時間を確保して、知らない語句を調べながら学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ・読書の幅を広げるためにブックトークを行ったり、個々の読書傾向を把握して絵本から本への移行ができるような本を児童に提案したりする。また、本の帯やポップの作成などの児童同士での紹介活動を充実させる。
高	・伝えたいことを表現するときに、推敲したり、校正したりして、粘り強	・話すこと・聞くことの学習活動では、互いの意図や立場を明確にすることを大切にし、自分の話を

	くより良くしていこうという意欲が低い。 ・相手の目的や意図に応じて自分の考えと比較したり、互いの立場や意図を明確にしながら話し合ったりする活動が苦手である。	伝えたり、相手の思いを受け止めて自分の思いを深めていけたりするようにする。 ・児童にとって必要感のある課題を提示し、推敲の視点を明確にした上で、グループでの話し合いによる問題解決を図る活動を充実させる。 ・語彙力を高めるために、漢字や言語の学習の時間を十分に確保し、詩や俳句の作成などを充実させる。 ・読書の質を高めるために、様々な分野の読書を推奨し、ビブリオバトルなど児童同士で読書の幅を広げる紹介活動を充実させる。
--	---	--

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
・自己の学びを振り返り、自己調整しながら学習を進められる力を養う。 ・よりよい社会を考え主体的に問題を解決しようとする中で、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・各種の基礎的資料を通して、情報を適切に集め、読み取り、まとめる力が全体的に低く、個人差も大きい。 ・学習内容と身近な生活を関連付けて考えることが難しい。 ・学習課題に対して自分事として、問題解決をしようとする児童が少ない。	・各種資料の読み取り方について丁寧に指導する。児童に提示する資料を精選し、じっくりと読み取ったり考えたりする時間を十分確保することで、基礎的資料を通して、情報を適切に集め、読み取り、まとめる力を育成していく。 ・学習内容と身近な生活を関連付けることができるように、社会科見学や外部講師による授業など、体験的に学習する機会を設ける。 ・映像資料やデジタル教材などを活用し、子供たちの興味・関心を高め、具体的なイメージをもたせることで、主体的に問題を解決しようとする意欲を育てる。
高	・各種の基礎的資料を通して、情報を適切に集め、読み取り、まとめる力が全体的に低く、個人差も大きい。 ・社会に見られる課題を自分事として捉える力が乏しく、自分の考えを根拠や理由などを明確にして説明することができない児童が多い。中には、自分の考えをもてないという児童も少なくない。 ・「思考・判断・表現」に関わる資質・能力が十分に身につけていないことから、社会科への苦手意識があり、主体的に問題解決しようとする意欲が低くなっている。	・各種資料を読み取り方について丁寧に指導する。児童に提示する資料を精選し、じっくりと読み取ったり考えたりする時間を十分確保することで、基礎的資料を通して、情報を適切に集め、読み取り、まとめる力を育成していく。 ・タブレット PC を活用し、互いの意見を閲覧できるような活動を行い、友達の考えを参考にして更に自分の考えを深められるようにする。 ・映像資料やデジタル教材などを活用し、子供たちの興味・関心を高め、具体的なイメージをもたせることで、主体的に問題を解決しようとする意欲を育てる。

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
・自己の学びを振り返り、自己調整しながら学習を進められる力を養う。 ・日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力や基礎・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・数の大きさや数のまとまりを捉えられていない児童がいる。	・幼児期の教育において、遊びや生活の中で体験してきたことを想起させながら理解させる。
低	・言葉の言い回しによって、数の構成を正しく表記することが難しい。 ・自分の考えを、分かりやすく伝えることが難しい。	・具体物を操作することで数の構成を理解させ、繰り返し行い、言葉の言い回しに慣れさせると共に数感覚を豊かにしていく。 ・自分の考えの伝え方について、話し方（話型）や、ブロック等の操作の仕方、ノートの書き方を丁寧に教える。
中	・かけ算九九や繰り上がり繰り下がり の加減法、わり算など基礎・基本的な計算が身についていない児童が多い。 ・問題内容を把握する力が十分ではなく、文章をよく読まず、数値だけを見て立式する児童が多い。 ・計算の仕方や式の意味、自分の考えを分かりやすく説明できる児童が少ない。	・基礎・基本的な計算については授業の始めの時間を使って取り組ませたり、テスト等のやり直しを徹底したりするなど補充的な学習を積み重ねていく。 ・問題内容を図などに表し、自分の立てた式がっているか確認する活動を取り入れる。 ・考え方を近くにいる児童に説明する時間を設け、数学的な表現を用いて説明する機会を増やす。
高	・整数、小数、分数の四則計算や混合計算で正しい答えを求められない児童がいる。基礎・基本的な計算において、計算の仕方を理解するのに時間がかかる児童もいる。 ・問題を把握する能力も乏しく、演算決定の根拠を説明することができない児童が多い。 ・自分の考えを説明したりすることが苦手な児童が多い。	・計算の方法の正しい理解のために、説明をしながら計算をする指導を繰り返し行っていく。テストの直しを徹底したり、補充の問題を取り組ませたりしていく。 ・演算決定の根拠となる公式や数値の関係の整理する数直線や線分図を使って自分の立てた式を確認できるようにする。 ・考え方を近くにいる児童に説明する機会を作り、良い説明ができていない児童の価値付けを行ない、数学的な表現の良さに触れさせる。近くの友達と説明し合う活動を取り入れ、説明する機会を増やし、説明の仕方の指導を工夫する。

4 理科

【豊島区立豊成小学校】

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
・自己の学びを振り返り、自己調整しながら学習を進められる力を養う。 ・差異点や共通点を基に問題を見だし、生活経験や既習の内容を基に根拠のある予想や仮説を発想する力を養う。また、予想や仮説を基に解決の方法を発想し、より妥当な考えをつくりだす力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・自分の生活経験や既習事項を基に予想を立てることが難しい。 ・観察、実験などを通して意欲的に学ぶことができるが、解決したことから考えをまとめることが難しい様子も見られる。	・自分の生活や既習事項を想起できるような資料を提示する。 ・考察するときの視点を提示したり、自分が考えたことを友達と共有したりする時間を設ける。
高	・予想や仮説を基に、解決の方法を正しく見いだすことが難しい。 ・問題解決の過程全体を通して意欲のある姿を継続させることが難しい。 ・実験を行うことは好きだが、考察を苦手としている児童が多い。	・予想や仮説を立てた後に、どのようにすれば解決できるのか、対話の時間を設ける。 ・自分事として考えさせるために実験の方法を自分たちで考えさせる時間を設ける。 ・対話をしながら考察し、自分の考えをまとめることができるような時間を設ける。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	・計画的に進めたことで学校の生活やきまりに円滑に慣れていくことができた。	・児童の実態に合わせて無理のない計画を立てる。
低	・言語による表現等、自分の気付きをすすんで表現することができる児童が多い。 ・友達の気付きから、さらに自分の気付きを広げたり深めたりしていくことが難しい。	・「伝え合い交流する活動」を繰り返し取り入れた学習過程に重点を置き、指導計画を立てる。 ・異学年・公共の施設等、関わる人や場を広げると共に、児童の気づきを大切にする。 ・自分の思いや考えを表出し、互いの考えを認め合いながら自分やグループの考えを発展させて、次の活動へつないでいけるよう、指導していく。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・範唱や範奏を聴いて模倣したり、声や音を合わせて意欲的に歌ったり演奏したりしているが、音程やリズムが安定しない。 ・楽しみながら曲想を感じ取り、情景を想像しながら歌ったり演奏したりすることはできるが、感じ取ったことを表現に生かす力に乏しい。 ・音楽表現する楽しさを感じながら活動することは十分にできるが、身の回りの様々な音楽に興味をもつには至っていない。	・階名唱やリズム唱、体や楽器によるリズム打ちを取り入れ、正確な音程やリズム感覚を身につけられるようにすると共に、視唱や視奏の基礎を養う。 ・どのように歌ったり演奏したりするかについて「楽しそうに話し合うように」など、具体的なイメージをもたせ、表現させていく。 ・一つの曲を伴奏に合わせてフレーズごとに交互に歌ったり演奏したりして、音を合わせる楽しさを感じさせていく。
中	・自然で無理のない発声で歌ったり、ハ長調の楽譜やリズム譜を見ながら演奏したりすることはできるが、自分の声や音を友達と調和させる力が乏しい。 ・進んで音楽活動をしたり、協働的な活動に意欲的に取り組んだりすることはできるが、音楽的感性が十分に育まれていない。 ・曲想を感じ取って、思いを言葉で表現して友達と伝え合う活動に意欲的に取り組む一方で、表現を工夫する楽しさを味わうには至っていない。	・互いの歌や演奏を聴き合ったり、伴奏を聴いて声や音を調和させたりする活動を取り入れ、友達と合わせて音楽活動する経験を増やすようにする。 ・模範演奏や多様な音楽を鑑賞する経験を積むことを通して、リズム感、旋律感、和音感、強弱感などを育むようにする。 ・実際に歌ったり演奏したりする中に、言葉や音楽で表現の工夫を伝え合う学習活動を取り入れる。
高	・自然で無理のない響きのある歌い方で歌うことができるが、曲想に合った歌い方をしたり、奏法で演奏したりするには至っていない。 ・表現についての知識が身に付いている児童が多い。しかし、その知識を歌唱や演奏に生かすことに苦手を感じている児童もいる。また、曲にふさわしい表現を工夫することはできるが、ど	・作詞・作曲者の思いが込められた歌詞や音楽の構造を生かして歌ったり、マレットを打つ強さや楽器の息の吹き込み方に気をつけたりするなど、曲想に合った歌い方や奏法で演奏する活動を多く取り入れる。 ・曲の特徴について理解を深めながら、これまで得た歌い方や演奏の技能を活用して、曲想に合った表現を工夫し、互いの表現を聴き合うなど、表現の良さを認め合うことができるようにする。

	のように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつことなど、表現の技能に個人差が見られる。 ・主体的に音楽に関わったり、協働して音楽活動する楽しさを味わって活動することができるが、それらの音楽経験を生活に生かすことが難しい。	・我が国や諸外国の音楽などを含めた、様々な音楽に触れる経験を多くもつようにして、生涯にわたって音楽に親しんでいこうとする態度を養うようにする。
--	--	---

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
表したいものを自分でイメージして色や形を用いて表現し、自分や他者の表現の良さや面白さを見つけられる子		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・題材を問わずに意欲的に楽しんで取り組む児童が多い。 ・アイデアを考える段階で「何にしたらいいかわからない」という児童がいる。	・アイデアを考える前段階に様々なバリエーションの作例を見せたり、アイデアを考えるためのヒント資料を提示したりしてアイデアを考える活動をスモールステップ化する。
中	・時間がかかるが、学習したことを自分が表したいものに合わせて使うことができ、自分のイメージを形にすることができる児童が多い。 ・すぐに「完成した」と言い、自分でより深めたり作り込んだりすることができない児童もいる。	・制作の途中段階で作品を見合い、良さや工夫を共有する活動を設定する。 ・“レベルアップチャレンジ”として作品をより良くするための方法を具体的に提示する。 ・完成後の振り返りでは色と形に着目して自分の作品を見返してよくできた点やもっとこうしたかったことなどを具体的に言語化させる。
高	・学んだ技法や素材の使い方を工夫して自分の考えを表すことができる児童が3分の1ほどいる。 ・図工に対する苦手意識が強い児童がいる。	・苦手な児童の苦手ポイントを把握して個別支援や、表現の良さを認める声かけをする。 ・全体への指導で目標や制作手順、用具の扱いなど全員に理解させたいことについては要点を絞って短く的確に伝えることで制作時間を確保し、個別対応することができるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
日常生活の中から主体的に課題を見だし、工夫して解決方法を考え、自らの生活をよりよくするために、それらを自分の言葉で表現し解決する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	・家庭での経験の差が大きく、知識や技能の個人差が大きい。 ・協力して活動することはできる。 ・学んだことを生かし、自主的に実践している児童は少ない。	・ICT 機器等で具体物を提示し、経験の差を埋めて実践できるようにする。 ・製作や調査などを交流し合い、他者からの意見を踏まえて改善方法を考え、課題を解決できる力を養うようにする。 ・学習したことを繰り返し実践させ、家庭で生かす機会を増やす。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
・自己の学びを振り返り、自己調整しながら学習を進められる力を養う。 ・協働学習を通して、自己と仲間の良さや課題を見つけたり、その課題の解決の仕方を考えたりする力を養う。また、課題解決のために自己や仲間の考えたことを、他者に伝える力を養う。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・遊びの中で基礎的な動きを経験できるように指導しているが、動きの習得に個人差が見られる。 ・振り返りに「仲間の良いところ」の項目を設けたことによって、少しずつ仲間の動きに着目しながら学習する姿が見られるようになってきた。また、その動きをわかりやすく書いて表現することができる児童も増えてきた。仲間の良さを発表するなど、伝える力を高めていく必要がある。 ・運動遊びに意欲的に取り組んでいる児童が多い。	・「36の基本動作」を踏まえた授業内容を考え、動きの経験の幅を広げられるようにする。 ・どのような動きが良い動きなのか、例を提示したうえで、よい動きのポイントを理解させる。また、そのポイントに着目しながら友達の動きを見る活動を取り入れる。友達の良いところを書いて表現したり、友達に伝えたりする活動を継続していく。映像記録などを使用して、自己の動きを振り返らせる活動の時間を設けていく。 ・「楽しさ」を味わわせ、「もっとやりたい」と思える、運動遊びを取り入れるようにする。
中	・得意、不得意も含め、知識・技能の習得に個人差が見られる。 ・ペアやグループで活動していても、自分のことで精一杯のため、友達の良さや課題について気付いていない。 ・主体的、意欲的に取り組んでいる児童が多い。	・動画や教師の手本を活用し、技術面の向上を図れるようにする。また、スモールステップで取り組める場を設定する。 ・授業の振り返りの視点に友達との関わりの項目を入れたり、協働的な活動ができるための授業作りを行う。 ・運動の「楽しさ」を味わわせ、「もっとやりたい」と思えるような教材やルールを考えていく。

高	・運動の特性、自己やグループ、チームの課題、仲間の良さなど、多面的な視点から学習を振り返ることができる児童が増えてきた。しかし、そこから次時の課題を見つけたり、自己の学び方を考えたりする力を育む必要がある。 ・自己やグループ、チームの課題についての考えを伝えたり、それについて話し合ったりする力を育む必要がある。 ・得意、不得意も含め、知識・技能の習得に個人差が見られる。	・振り返りの視点の指導を継続すると共に、そこから次時の課題や学び方を考えさせる指導を行う。また、その流れができている児童を賞賛し、学級内で共有する。 ・協働的な学習の時間を意図的に設定しする。また、話し合い方（話型等）の指導を行い、その良さを実感させる。 ・動画や教師の手本を活用し、技術面の向上を図れるようにする。また、スモールステップで課題解決に自ら取り組める場を設定する。
---	--	---

I 0 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力

(低学年)

- ・音やゲームを通して、外国語の語句や表現に慣れ親しむ。

(中学年)

- ・対話的な言語活動を通して、語句や表現に慣れ親しみ互いの考えや気持ちを伝え合う力の素地を養う。

(高学年)

- ・コミュニケーションの基礎となる語句や表現を、読んだり、話したり、書いたりする力を養う。

学年	現在の状況	改善のための取組
低	・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う素地を身につけつつある。 ・外国語を使っのコミュニケーションには、積極的に取り組める児童が増えた。	・ゲームを通して楽しく慣れ親しむことができるようにする。 ・楽しみながら繰り返すことで、外国語の表現に慣れ親しませる。
中	・積極的に授業に参加しているが、授業で使う英語表現や、単語をすぐに忘れてしまったりすることが原因で、コミュニケーションに消極的になってしまう児童もいる。 ・外国語を用いての基本的な挨拶や自己紹介は慣れ親しんできたが、自分の考えや、気持ちなどを伝える場面では、言葉がでない児童もいる。	・同じ歌やチャンツを繰り返し流して、リズムを使い単語を定着させる。 ・本時で学ぶ内容が、具体的にどのような場面で使われているかを児童に明確にさせてから指導を行う。
高	・歌やゲームなどのアクティビティをすすんで行う児童が多いが、実際のコミュニケーションで活用できていない。 ・ALTや友達とのコミュニケーションでは主体的に会話をすることに抵抗感がある。 ・苦手意識のある児童とそうでない児童の二極化により、友達に頼ってしまう児童がいる。	・グループやペアの友達と協力しながら、自分自身の考えや相手の思いを英語でやりとりする場面を設定する。 ・教師が積極的に英語を使ったりすることで、英語でコミュニケーションを図ろうとするようにさせる。 ・児童が目的意識をもつために、具体的な終末の活動を提示し、見通しをもてるようにする。

Ⅰ Ⅰ 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・道徳的価値は理解できるが、それを自分事として捉えたり、自己の生活を振り返って考えることが難しい。	・振り返りにおける発問をよく吟味し、工夫する。 ・児童にとってより身近に感じられる振り返りにする。
中	・資料の内容について関心をもって考えることができる。しかし、自分の生活と結びつけられないことがある。	・児童が日常生活と結びつけられるよう導入を工夫する。また、終末の学習活動における考える時間を十分に確保する。
高	・自分なりの考えを発言したり、ノートに書いたりして表現することができるが、自分自身の経験や行動と重ね合わせて考えたり、互いの意見を比べて考えたりすることが難しい児童がいる。	・ペアやグループで話し合う活動を取り入れたり、発問の工夫や問い返しをしたりして、全体での話し合いを充実させ、自らの考えを広げられるようにする。また、終末の「自分の見つめ直す時間」を十分に確保し、自らの経験や行動と重ね合わせて考えられるようにする。

Ⅰ Ⅱ 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	・必要な調査方法を用いて課題解決を図ることができていない。 ・情報収集した内容を相手意識をもって効果的にまとめたり、発表したりすることが難しい児童が多い。 ・調べ学習に意欲的だが、自ら課題を設定することに自信のない児童がいる。	・より多くの調査方法を経験させる。 ・まとめ方や発表方法を例示する。お互いに見合う機会を増やし、その都度アドバイスし合えるようにする。 ・学校や地域の特性を生かした題材を設定し、児童が意欲的に取り組めるようにする。
高	・現状や集めた情報から、課題を見つけることが難しい。 ・自分の考えをもち、積極的に課題解決に向けて活動するために、支援が必要な児童がいる。	・地域人材や企業等を活用し、体験的な活動を通して主体的に課題を設定させていく。 ・ICT 機器を活用し課題解決に必要な情報を収集させ、効果的な発表の方法を選択して表現させる。

I 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
学級や学校の実態に即して課題を見出し、解決方法を決めて実践したり、その取組を振り返ったりしながら、よい点や改善点をよりよい学校・学級生活を築くために生かしていく力を養う。 ※学級活動（係）・委員会活動を通して、自分を生かしながら自主的な体験を重ね、周囲の友達に認められることで自己有用感、自己効力感を得、自らの学級への所属意識へとつながられるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・日直や当番活動には真面目に取り組んでいる。 ・見通しをもったり、友達と協力して行うことが難しい。 ・やりたい思いは大いにあるが、行動や実践に移すにはまだ難しいところがある。	・児童の様子から、係につながる活動を価値付けて、自主的な係活動に導いたり、係活動例を教えたりして、自ら取り組もうとする意欲を高める。 ・朝・帰りの会、学活等で振り返りの時間をとり、称賛したり改善点を一緒に考えたりして、よりよい友達との関わり方や係の進め方を支援する。 ・小さなことから、皆で計画し、実践するという成功体験を積み重ねていく。
中	・自分の意見を発言できる児童が多い。しかし、互いの意見を尊重しながら自分の意見と折り合いをつけてよりよい学校生活について考えることができる児童は少ない。	・係活動の中で「クラスのため」「みんなのため」を意識できるように助言する。 ・「みんなのため」を意識して発言している児童を、称賛し価値付けていくことで折り合いのつけ方を指導していく。
高	・学級会の時に、自分の考えを持ち、友達に伝えられる児童が多い。また、その考えをもとに、行動や実践に移すことができる児童もいる。しかし、その意見や考えを尊重したり、集約してクラスの意見として1つにまとめたりすることは難しい。	・学級会や係活動の中で、話し合い活動（協働的な学び）の充実を図り、考えや意見を伝えること、それらを受容してまとめる経験を積ませる。その良さを価値付けるような言葉掛けを行う。

I 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	・自分の思いを伝えられない、自分勝手に動く、気持ちのコントロールをすることが苦手である。	・個々の発達段階に合わせた方法で、適切な行動や言葉遣いを学ばせる。
中	・友だち関係でのコミュニケーションの取り方、集団行動が苦手である。	・個別や小集団活動で、コミュニケーションの取り方を学ばせる。
高	・個々の特性が目立つようになってきた。友だちとの関係づくりが苦手である。	・個々の特性に合わせ、他者との関わり方や集団での適切な行動を学ばせる。 ・中学校を見据えて社会性を身につける。

